

# 楽の連鎖

ことしで2回目の開催となった「いなわしろおひな様めぐり」。町内外からのお客さんに商店街を歩いてもらい、商業活性化につなげたいと企画したこのイベントが、思わぬ効果を上げています。

## 第1章 商店街を楽しくにぎやかに

### おひな様が町を彩る

「いなわしろおひな様めぐり」は2月19日から3月3日までの13日間、猪苗代駅前、役場通りや中央商店街を中心に開催されました。

町内外からのお客さんに商店街を歩いてもらい、最終的には商業の活性化につなげたい。株式会社まちづくり猪苗代（江花祥雄社長）が企画したこのイベントには、町内の27店舗が協力。各店が保管

していたひな人形、掛け軸やつるしびななど、色とりどりのおひな様が飾られ、訪れた人々を迎えました。

まちのえき「こぼほん」では、約140年前のひな人形などが飾られたほか、猪苗代婦人連絡協議会会員や町民が作製したつるしびな、猪苗代保育所の園児たちが作ったおひな様などを展示。つるしびなの製作体験、いなわしろ民話の会による民話の語りや青木社



(写真左上) こぼほんに飾られた手作りのひな人形、古いおひな様やつるしびななどが、訪れる人の目を楽しませました  
(写真下) おひな様めぐり期間中の2月26,27日の両日、関連イベントとして民話の会会員による民話の語りも実施されました

中によるお茶会なども催され、町内外からのお客さんを楽しませました。

### 急がずゆっくりと

「始まりは、歩いて暮らせるまちづくりの事例発表会に参加したことでした。桑折町、二本松市や白河市などの人たちと話しをして、こんなことをやっているんだよと紹介されたのがきっかけです」と話すのは、昨年からはまったこのイベントを担当している（株）まちづくり猪苗代の山田澄子総務課長。

「どこの市町村も、最初から大きく始まったわけじゃない。2、3軒から始まるんだよ。まずは仲間を3人集めてやってみたら、と言われて、仲間3人なら集められるかなと思いました」と話します。

「ほかの町の人には、簡単に売り上げにはつながらないと言われました。最初の年は見に来ただけ、2年目にはこういうものが売っている。と知られるくらい。だからあせらないこと」。そう言われて、ゆっくりと無理をしないでやっていくことを決めたと言います。

山田さんが何軒かのお店を

訪ねて話をしてみたところ、「うちは毎年飾っているよ」「今は飾っていないけど、古いおひなさまがあるよ」「毎年家の中に飾っている」など、家の中には飾っている人が多かった。それをお店に飾ってくれませんかと呼び掛けると、皆さんが快く協力してくれたと言います。

「そのほかにも、あの人がつるしびなを作っているよとか、いろいろな人を紹介してくれました。1年目は15軒だった協力店は、今年は27軒でも急いで大きくしようとは思いません」と山田課長。

「最終的には商業の活性化につながればと思います。が、まだ始まったばかりです。協力店の皆さんと共に、できる範囲で楽しみながら続けられるイベントにしたいです」と笑顔で話しました。

前年と比べ、お客さんや協力店も増えました。工夫を重ねて展示内容を充実させている協力店も出てきています。ゆっくりと、しかし着実に広がりを見えるひなめぐりの魅力は一体何なのか。

次の章では、ひなめぐりを楽しむ人たちを通して、その魅力に迫ります。





⑪岡村美容室



⑯福島銀行猪苗代支店



⑫東邦銀行猪苗代支店



⑩メガネのオサダ



⑧しおや酒・民芸店



⑮つるや



⑭工房ポプリ



⑬ムナカタ薬局



⑥そば情報館



②肉のおおくぼ



①茶房そら



⑦マルシメ商会



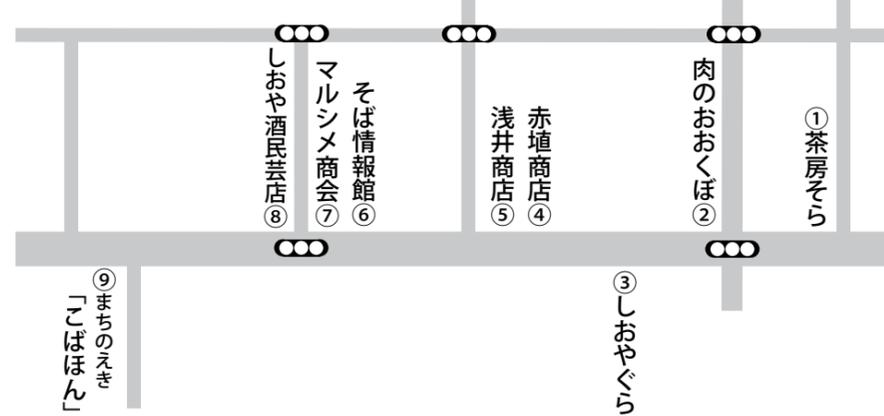
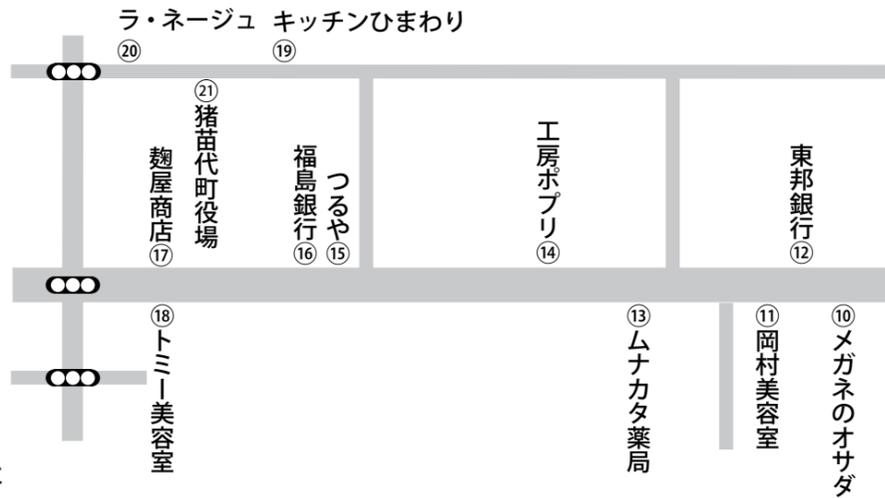
⑤浅井商店



③しおやぐら



⑱キッチンひまわり



いなわしろ  
おひな様めぐり  
マップ

次ページに  
続きます

### Voice

100年前の掛け軸、娘のひな人形や昔のものなどを飾っています。おひな様を飾ったと言ったら、結婚した娘も見に来ました。ほかの家がどのように飾っているかなどを見て歩くのも楽しみです。皆さんもぜひ足を運んでください。



麴屋商店  
中澤キヌ子さん(左)  
悦子さん

### Voice

このイベントを機会に、店頭におひな様やほかの人形を店に出すようになりました。人目について人形たちも喜んでくれると思います。お客さんが来ると、甘酒を振る舞います。皆さんがとても喜んでくれるのでうれしいですね。



つるや  
渡部百合子さん

### Voice

商店街が、もったにぎやかにすればいいと思って協力しています。年配の人などは自分の家で飾らなくなったおひな様が見れたと喜んでくれています。おひな様をきっかけにいろいろと話をし、会話を楽しんでいます。



赤埴商店  
赤埴キミノさん(右)  
加奈子さん

## 第2章 おひな様めぐりを楽しむ

毎年、お茶の間を飾っていたおひな様久しぶりに飾られたおひな様訪れた人々を出向えるその表情の一つとして同じものがないように、お客さんや私たちの楽しみ方もさまざまです。皆さんの楽しみ方を紹介します。



(写真右)こぼほんで開かれ、大変好評だったつるしびな制作体験の様子  
(写真左)この日作成されたものと同じウサギのつるしびな



# つるしびな をつくる楽しさ が伝える楽しみ

おひな様めぐりが着実に広がりを見せる中、注目を集めているのがつるしびな作りです。今回のおひな様めぐり協力店の中でも、数カ所に町民の皆さんが作ったつるしびなが飾られていました。

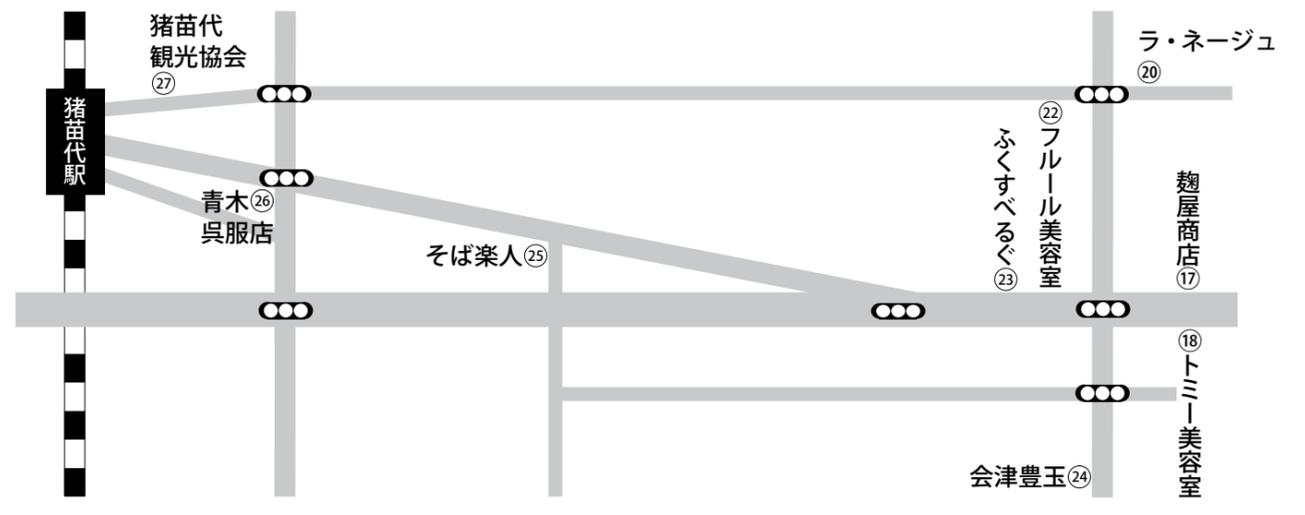
つるしびなは、江戸時代の後期ごろ、おひな様を購入できない一般の家庭で、子どもや孫の初節句を祝うために、母や祖母が手作りした「つるし飾り」に端を発したと言われています。静岡県の稲取温泉の「雛のつるし飾り」、山形県酒田市の「傘福」、福岡県柳川市の「さげもん」などが有名で、現在は関東地方各地で作られているそうです。

おひな様めぐりの関連イベントとして2月19、20日の両日、「こぼほん」で開かれたつるしびな制作体験には、町内外から多くの参加者があり、評判は上々でした。別な飾りを作る講座を続けてほしいという意見も出されました。

つるしびなは、なぜこの町でも広がりを見せているのでしょうか。

一つは、つるしびなそのものが持つ愛らしさとそれを作る楽しみではないかと思えます。作った作品を娘や孫にあげたり、展示して皆さんに見てもらったりして喜ばれること、そして、作品を作りあげた後の達成感、何ものにも代えがたいものなのではないでしょうか。

## つるしびなづくりが人気



## Interview

このイベントが始まる前からお客さんと一緒につるしびなを作り、展示会を開いていました。お店に飾っているつるしびな、タペストリーやおひな様はみんな手作り。期間中に、お客さんに振る舞ったお菓子も手作りしたものです。仲間と一緒に何かを作って行事を楽しむ。こういう運動が町中に広がっていくと素敵ですね。



茶房そら  
佐藤定子さん

そしてもう一つは、作っている過程の楽しみです。お客さんと一緒にお店に集まって、近所の人と自分の家で、そんな仲間との交流が楽しいのではないのでしょうか。

みんなで一緒につるしびなを作っている時の友人とのつながり。それは、失われつつある地域のつながりや人とのつながりを感じることで、できる楽しい時間です。

一つのひな人形が、紐でつながることです。つるしびなになるように、私たちはつるしびなを作りながら、友人とのつながりを作っている。私たちがつるしびなに魅せられるのには、そんな理由があるような気がしてなりません。

## Voice

店では10年くらい前から、ショーウィンドーにひな人形を飾っています。私自身も年に1回小さなひな人形を買って楽しんでいて、それも店に飾っています。おひな様があると、お客さんも見て喜んでくれて、お互いに楽しい気分になりますね。



青木呉服店(勤務)  
青木理恵子さん



26 青木呉服店



24 会津豊玉

# 第3章 おひな様めぐりがもたらすもの

お客さんに見てもらおうと飾ったおひな様  
お客さんや家族との会話を通じて気付いたことがあります。  
まず自分たちが楽しむことが大切。  
そんな大切なことに気付かせてくれたのは、  
おひな様が持つ不思議な力だったのかもしれない。

## おひな様から始まる会話

おひな様めぐりに訪れたお客さん  
で、黙ったまま見て帰るといふ人は  
ほとんどいません。同じように迎える  
側の人たちも、お客さんが来れば  
声をかけて話をします。  
「こんにちは。おひな様を見せてく  
ださい」

「どうぞ。見ていってくださんしょ」  
こんなあいさつのやりとりから、会  
話が始まり、広がっていきます。

「かわいいおひな様ですね。このお  
ひな様は、いつごろのもんですか」  
「これは私の娘が生まれたときに  
買ったもの。ところで、お客さんは  
どこから来られたの」

その家にあるおひな様には、その  
家の歴史があります。お客さんとの  
会話をしむ中で、こうしたプライ  
ベートルな部分の情報が交換されると、  
ぐっと親密度が増します。お客さん

とお店の人という関係から、友だち  
のように話をするようになれば、そ  
のお客さんはリピーターになるかも  
しれません。  
「来年は、こんなものを飾っから、  
また来てくださんしょ」  
そう言われて、来年もまた来ようと  
思う人もいるのではないのでしょうか。

## FUNからFANへ

おひな様めぐりの会話の中で、お  
客さんと皆さんはすぐに仲良くなっ  
てしまいます。往時のおひな様に思  
いをよせ、やさしい気持ちになっ  
てしまいます。お客さんも自分たちも  
楽しい気分になってくれる。それが  
おひな様の持つ不思議な力なのかも  
しれません。

ひなめぐりはいろいろな町で開催  
されています。しかし、この町で  
展示を見て、町の人と話ができる

すぐに商店街の活性化につな  
げることは難しくても、おひな  
様めぐりに参加している協力店  
の皆さんが楽しんでいる。それ  
が大事なんです。  
おひな様を飾ることを通して、  
商店の女性同士が行き来してい  
るのもいいことだと思えます。  
ほかの店を見て、来年はうちの  
店もこうしようという人やどう  
したらいいかなと相談してくれ  
る人も出てきているので、来年  
も楽しみます。

使われているイラストは、町内  
の山本明子さんをお願いして描  
いてもらったものです。こうし  
た才能を持った人に、その力を  
發揮してもらうことは、まちづ  
くりの大きな武器になります。  
こぼほんに飾っているつるし  
びなは、猪母連や町民の皆さん  
が作ってくれたものです。協力  
してくれた皆さんも、発表でき  
る場があるのは楽しいのではな  
いでしょうか。  
おひな様は日が当たると心配  
な部分もあるので、無理に参加  
してほしいとは言えません。皆  
さんの都合や条件に合わせて、  
無理をしないで続けていくこと  
が大事です。  
これからも、楽しみながら続  
けていけるイベントでありたい  
と思っています。



(株)まちづくり猪苗代  
総務課長  
**山田 澄子** さん  
Yamada Sumiko



こぼほんを訪れたお客さんたちは、古いおひな様や掛け軸などに関心していました

のは、ここしかありません。つまり、  
皆さんとお客さんとの会話が、その  
まま猪苗代のファンを増やす機会に  
なるのです。皆さんが楽しむ(FUN  
N)ことが猪苗代のファン(FAN)  
を増やすことに。おひな様めぐりは、  
すでに誘客と結び付いていたのです。

## 家族の間にも

「ずっと眠ったままになっていた  
おひな様を初めて飾ることで、嫁に  
来たこの家の歴史に触れました。家  
族の中でも会話が増えました」  
「自分のお店におひな様を飾ったら、  
ほかのお店も見てみたくなって、ひ  
なめぐりをしてみた」  
「普段あまり顔を合わせることもな  
い、よそのお店の奥さんと話をし  
て、交流が深まった」など、これらは全  
部、協力店の皆さんに聞いた話です。  
古いおひな様を出した時に、自分  
が生まれたころの話を孫に聞かせた  
こと。嫁に行った娘に、今年はおひ  
な様を飾ったよと電話をすること。  
おひな様を飾ることで交わされた家  
族の会話は、忘れ去られつつある古  
き良き家族の形を思い出させてくれ  
ます。

## おひな様もたらすもの

つるしびなづくりで仲間と過ごす  
時間の楽しさ、お客さんと会話をす  
るときの楽しさや家族と昔話で盛り

## Interview

何年前の物なのかわからないお  
ひなさまと、孫が生まれたのが  
きっかけで始めたつるしびなを  
飾りました。孫に七宝まりを  
作って送ってあげたら、お嫁さ  
んに大変喜ばれました。  
最近、近所の仲間がお店に集ま  
るので、つるしびな作りを教えています。一緒に遊んで  
いる感じが楽しいですね。おひな様があると、全然知らない  
人との会話も弾むのでいいですね。



**マルシメ商会**  
中村喜美子さん(右)

上がる楽しさ。  
おひな様めぐりは、まず私たちが  
楽しむイベントだったので。私た  
ちが楽しく暮らしていくことは、豊  
かなまちづくりへの第一歩。なぜな  
ら、楽しんでる人を見かけると、  
自分もやってみたいになったり、参加  
してみたくなったりするからです。  
あせらなくても大丈夫。この楽し  
いことの連鎖は、日々の暮らしを楽  
しむだけでつながっていきます。  
ひなまつりと言えど誰か思い出す、  
あの童謡の中にすでにヒントが隠さ  
れていたのかもしれない。  
今日は「楽しい」ひな祭り  
なんですから。

特集 楽の連鎖 終わり